

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	指定放課後等デイサービスいぶき伊達			公表日	2026年 3月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・ワンルールのスペースを、適切に区切り、支援室のスペースは適切である。	・特になし
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	・人数の配置は適切だが、職員の休みにより、支援が限られてしまわない様に、療育や送迎など考慮して行っている。	・職員の人数は一は適切ではあるが、急な病欠などでは、人数の配置や送迎などで状況に応じた判断や、対応を考慮し適切に行う必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・トイレも広く、バリアフリー化されている。生活空間は、子ども達に分かりやすい様に、絵による表示、部屋（パーテーションで区切られた）等構造化された環境になっている。	・子ども達の特性に応じた環境を考慮し、必要に応じ室内の模様替えなどを行い、適正化した環境を構成していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・始業前に及び支援終了後に清掃及び消毒を行い、定時に換気も行い環境整備に努めている。ワンルートをパーテーションなどで仕切り、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	・特になし
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・個別の学習スペース、機能的に分けたスペースなど、必要に応じて使い分けが出来る様になっている。	・特になし
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	・所内会議を行い、職員がいろいろ意見を出したり、振り返りを行い取り組んでいる。	・朝の打ち合わせ、支援会議など、PDCAサイクルにより取り組んできたので今後も継続したい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・毎年1月下旬頃にアンケートを配布し、2月までに集計。結果をもとに打ち合わせを行い、業務改善につなげている。結果をホームページに掲載している。	・特になし
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・年に1回、勤務、職務、抱負などのアンケートを行い、そのほかに日々の打ち合わせの中で意見交換をする時を設け、業務改善につなげている。	・特になし
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	・第三者評価による外部評価は行っていない、担当者が適切に評価している。	・担当者が冷静に視点を切り替え外部評価の視点で見つけ評価していく事が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・毎朝、各事業所の社員だけ集まり朝礼、情報共有及び学びの時間を設けたり、外部講師を招き、施設内研修を年に3回程、行っている。	・職員の経験年数や、役職、等に応じた研修を企画し実行していく事が必要。
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・児童発達支援管理者、職員が打ち合わせをしながら支援プログラムを作成、公表している。	・特になし
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	・半年に一回、子どもに対してアセスメントツールを用い分析し、親御さんの療育についてのアンケートを行なっている。又、送迎時にしっかりと申し込みも行ない、ニーズを把握し、施設内支援会議をおこない、計画を作成している。	・原則6か月に一回実施しているが、子ども達の日々の様子を見守り、保護者の意見を聞き、適切な時に行える様にしている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・発達支援管理者が中心となり、施設内支援会議を開き、前の計画を基に、職員からの声や意見、保護者へのアンケートを基に話し合い共通理解を図り、子どもの最善の利益を考慮し立案している。	・これから先も、子どもの最善の利益について毎日の打ち合わせの中で触れ、事業所内支援会議を開き、職員全員で話し合いの時をもち、共通理解をもち作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・放課後等デイサービス計画を、確認し、共有しながら計画に沿ったその子に応じた支援が行える様にしている。	・一人ひとりの支援について、個別支援計画書を基に話しをし、計画に沿った支援を行っていく様に継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	・いくつかのアセスメントツールを用い情報を集め、日々のケース記録もインフォーマルなアセスメントツールとして用いている。	・特になし
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「意向支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・個別支援計画書の「本人支援」、「家族支援」、「意向支援」及び「地域支援・地域連携」の目標や支援を踏まえ、具体的な支援を行う様にしている。	・「本人支援」、「家族支援」、「意向支援」及び「地域支援・地域連携」のねらいや支援内容を考慮し療育が適切に行える様に今後のしていく。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・毎朝、昨日の反省、振り返り、今日のプログラムの話し合いを行なってる。	・特になし
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・下校時間によって異なる事があります。 ・工作、クッキング、レクリエーションの機械を設けて支援しています。	・活動プログラムが楽しめる様に話し合いの時をもち、マンネリ化や固定化されない様に今後も立案していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・個別の時間もお子さんに応じて設けており、集団活動も余暇の時やグループワークの時に設けています。それにともない、サービス計画も立案しています。	・これから先も、その日の利用人数や子ども達の特性に応じ、個別活動、集団活動の療育を組み合わせで行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・必ず、打ち合わせを行なっている。又、その時やこの時間に何をやるかまで話し合っています。	・今後も前日の振り返りから行き、本日利用のお友達について情報の提供を行い、療育について話し合いながら、支援内容の確認役割分担を行いチームで連携し支援していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	7	0	・送迎から戻ってきたら申し送りを、その日の振り返りを行なっています	・朝の打ち合わせと組み合わせ、内容がリンクしながら支援のつながり、おこなえる様に継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・日誌の記入その日に残った職員が入力しているため、その日のうちに正しく記録出来ている。	特になし
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・新しく入所したお子さんは、1、2、3か月、半年、1年、継続のお子さんは半年、1年、アセスメントを行ない、見直しを図っている。	・定期的にモニタリングを行う様にしているが、保護者の意見、療育現場の声などを考慮し、6か月にこだわらず（6か月よりも短い期間で）必要に応じておこない、見直し必要もある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	放課後等デイサービスガイドラインといぶき伊達の療育方針と照らし合わせて支援を行っている。	ガイドライン4つの基本活動にいぶき伊達の療育方針を組み合わせ、より良い支援を行う様に今後も務めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	・いろいろな遊び、課題を自分で選び取り組める様に配慮し、高学年の児童については自分で目的を決め活動する事を行い、主体性を育てる支援を行っている。	・自分で選んで取り組む課題も用意し、学年が上になるごとに自己選択をする機会が増える様に今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・担会には、サビ管、自発言、又はリーダーが児童指導員が参加している。その為、しっかりと話し合いが出来ます。	特になし
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	・地域の関係機関と連携を図り、体制を整えて支援していける様に考慮している。	利用する友達とかかわりのある機関と連携を図っていける様に、今後も働きかけをしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	・学校の先生とは送迎の時に密に情報共有を行なっています。又、下校時刻が変わった時には学校から連絡を頂くこともあります。	新学期に改めて挨拶に伺い情報の交換の糸口を見出し、連絡を取り合いながら進められるようにしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	・児童発達支援事業所を訪問したり、保護者にしっかりとアセスメントを行ない把握も出来ています。相談支援専門員から情報ももらっており、共有を図った上で支援出来ています。	・今後も児童発達支援事業所や認定こども園や保育園との情報の引継ぎを図りながら相互理解を含め支援していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ意向する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0	・保護者にしっかりとアセスメントを行ない把握も出来ています。相談支援専門員から情報ももらっており、共有を図った上で支援出来ています。情報の提供もおこないます。	特になし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	今年度は連携はしているが、助言や研修を受ける機会はありません。	訪問を受け上限や研修を行う機会を設けていこうと考えている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	・祝日・休日・長期休みには外出活動もある為、その時に交流する機会を設けています。	郊外療育を行う中で取り組んできたが、次年度は放課後児童クラブとの交流も前向きに考慮していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	いぶきグループの代表が出席し、協議会の内容を伝えてもらい、情報の共有や話し合いの時も持っている。	特になし
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・送迎時や連絡帳、又は半年に1回のアセスメントの時に現状を伝え、共通理解を持つことが出来ています。	特になし
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	・保護者から相談されたときには、しっかりと助言を行なっています。	・家族支援やペアレントトレーニングについて施設内で学び、実施していける様にしたい。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時（更新）やモニタリング時にしっかりと説明しています。	・今後も継続し、分かりやすく説明していきたい。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・計画の更新及びモニタリング時に保護者の意向子どもの意向を聞き、子どもの最善の利益の優先を考慮しながら、確認する機会を設けている。	・子どもの最善の利益とは何かを職員間で共有し、その観点を踏まえ本人や家族の意向を受け止め療育をしていく様にしていく。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	・計画の更新及びモニタリングの際に、話し合いの時をもち、放課後等デイサービス計画について確認、同意を得て発行している。	・特になし
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・随時必要に応じて行っています。	・ペアレントトレーニング同様に助言や支援、アドバイスが出来る機会を今後も設けていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7	0	・講演会を開催その後、かかわりの時を設けてきたが、保護者からはもう少し交わりたいという声があってきた。	今年度は保護者向けの研修会を企画してきたが、次年度は保護者同士の交流がもてる企画を検討している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	迅速かつ適切に対応していくために担当者を設け対応しています。	今年度は苦情はなく、次年度も苦情がない様に、保護者との連携やk 小友の最善の利益を考慮し支援したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・2か月に1回程度、いぶき通信を配布しています。	特になし
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報について、入社時、個人情報に対する契約書を交わし、職員打ち合わせの際に注意喚起を行い、退職時にも伝えている。	特になし
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもや保護者に応じた対応を行い、意思疎通や情報の共有に努めている。	一人ひとりに応じた対応を次年度も継続して行いたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	・感染症対策を考慮した上、実施を見合わせた	・次年度、実施について検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・契約時や更新時にマニュアルを伝えていますが、いつでも保護者が閲覧出来るように見える所に設置しています	・特になし
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・必ず避難訓練（火災、地震、水害）を毎年行っています。	・今年度は避難訓練を定期的に実施し、次年度も継続して訓練を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	・フェースシートに入所時（継続の際は3月末）疾病歴、予防接種歴、服薬の有無、癇癇を含む障がい名を記入いただき、変更があった時は、追記及び、訂正している。	・特になし
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・フェイスシートの記入、入所前のアセスメントを徹底しています。	・食物アレルギーやほかのアレルギーについては情報の収集を次年度も今年度同様行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・定期的に非常時についての話し合いや、避難訓練（地震・火災・水害等を想定して）実施している。	・行政発行のハザードマップを確認し安全計画を見直し、安全管理が十分にされた中で次年度も支援を行う。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・子どもの安全確保について、更新及びモニタリングの時に話しをし、ご家族への周知を行っている。	・次年度も安全計画の内容を、今年度同様新規契約モニタリングや更新の際に伝え周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・ヒヤリハット事例集に掲載する事例は今年度も発生していないが、過去の事例を読み、職員間でしっかりと共有出来ています。	・ヒヤリハット事例集に掲載する事例が発生した際は、再発防止に向けた方策を検討し記録に残していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・月に1回の朝の打ち合わせの際に、虐待防止についての話し合いの時をもち、注意喚起をしている。	・何が虐待につながるのか、虐待ととらえられる事例は何か検討する学びの時を次年度も設け啓発していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	・契約時に十分に説明を行なっています。身体拘束等適正化委員会を行い、組織内で内容及び実施不実施のついて確認している。今年度は、身体拘束等実施はなかった。	・身体拘束当委員会を開き職員の共通理解が図れる様にしていく。	